



しばた いさお 柴田 勇雄 議員

問 町民の国体参加体制の構築は

答 町民が運営に関わる場面を設定

議員 国内最大のスポーツの祭典「国体」が、28年度当町で初めて開催されます。現時点で当町の国体への取り組み状況が見えなく、町民や各種団体などに戸惑いがあります。町民総ぐるみの国体参加体制づくりの構築を伺います。
町長 町では、26年3月に「希望郷いわて国体葛巻町実行委員会」を設置し、町野球協会、体育協会などの関係団体と連携し、準備を進めています。具体的な事業内容はこれからお知らせし、協力体制の構築を図ります。
自治会、学校、企業などによる「花いっぱい運動」や「歓迎のぼり」、「街路灯へのフラッグ」の掲揚、「町民のボランティア運営スタッフ」の募集などを行い町内環境美化、観光案内、おもてなし気運の醸成に努めます。



2014長崎国体で地域の婦人会の方が、特産品の試食を振る舞う様子

野球場には小中学生や高校生による学校単位での応援対応も考え、また、町民の野球場までの送迎は循環バスを運行し、利便性の向上を図ります。
野球場は国体競技施設基準を満たしていますが、27年度は球場内の塗装や芝生の養生を行い、国体時には仮設テントなどの応急設備も考えています。
議員 町道茶屋場田子線の事業の進行状況と、今後の事業見通しは。また、同路線を結ぶ連絡道整備計画、浦子内入口・大橋周辺拡幅整備、町裏線の具体的な改修計画を伺います。
町長 本路線の改良区間は、茶屋場交差点から大橋まで(955m)が第1期工区、大橋から役場裏まで(855m)が第2期工区として実施します。

国体は、町の情報を発信する絶好の機会であり、町民が国体運営に関わることで協働意識の向上や健康・体力づくりへの関心が深まることを期待しています。
議員 3期目も引き続き町政を担う決意
町長 町づくりにおける3つの重点施策を掲げ、2期目の町政を担当しました。「安心して住み続けたいまちづくり」として、情報通信基盤の整備や

～今ここが聞きたい～

3月9日に、4議員が一般質問を行いました。一般質問は、町の行政全般にわたり、事務の執行状況や将来の方針などを幅広い視点から報告や説明を求め質問します。議員の質問できる時間は、1時間以内です。議事録の内容は、町のホームページと議会事務局で閲覧ができます。



たつやなぎ けいいち 辰柳 敬一 議員

問 新葛巻型酪農構想の特色は

答 リーディング牧場の創設など

議員 新葛巻型酪農構想の特色や進行状況、実現に向けての課題を伺います。
町長 本町の酪農は、平成15年に年間4万2867トンであった生乳生産が、平成25年には3万5833トンまで減少しました。搾乳農家数も240戸から157戸に減少するなど、厳しい経営環境が続いています。
この現状を打破して新たな方向性を見いだすために、「新葛巻型酪農構想プロジェクトチーム」を立ち上げ、新酪農振興の指針となる「新葛巻型酪農構想」の策定を進めています。構想の目指す目標に「効率的かつ合理的な生産と酪農の高付加価値化」を掲げ、これを実現するために、①リーディング牧場(地域のモデルとなる牧場)の創設、②畜ふんバイオマスによる熱源供給、③公共牧場の機能強化、④作業外部化組織の育成、⑤個別経営体の規模拡大支援の施策を推進し、酪農生産体制の強化を図る考えです。
一方で、この構想を全て実現するためには約130億円の事業費が見込まれるため、酪農家の財政負担が大きくなるのが課題です。そのため、国や県の支援が不可欠なことから、農林水産省を訪問し事業の実現に向けて要請を行ってきました。今後も引き続き要望を続けます。



海外酪農視察研修で説明を受ける参加者ら(アメリカニューヨーク州)

議員 3期目も引き続き町政を担う決意
町長 町づくりにおける3つの重点施策を掲げ、2期目の町政を担当しました。「安心して住み続けたいまちづくり」として、情報通信基盤の整備や

議員 3期目も引き続き町政を担う決意
町長 町づくりにおける3つの重点施策を掲げ、2期目の町政を担当しました。「安心して住み続けたいまちづくり」として、情報通信基盤の整備や

100円バスの運行など、町民が「安心」して暮らせる町づくりに取り組みました。「夢のあるまちづくり」の取り組みでは、移住・定住奨励金の創設、保育料の無料化など、生活にゆとりをつくり「夢」を持って活動できる町を目指してきました。「誇り」を持って暮らして、山村にある力や魅力を全国に情報発信し、都市と山村の絆と交流を深め「誇り」に思える山村のモデルとなる町づくりを進めてきました。「山村のモデルとなる町づくり」の取り組みに手応えを感じ、軌道に乗り始めています。そのスピードを加速させ、町民が幸せを実感できる町づくりに取り組みたい思いが強く、引き続き町政を担う決意を固めました。



おおひら まもる 大平 守 議員

### 問 新病院完成予想図の公表は

### 答 基本設計完了後に町民に周知

議員 新葛巻病院の建設について伺います。基本設計の進行状況は、町では、昨年12月に設計業者と業務委託契約を締結し、「町民に親しまれる病院」を施設整備のコンセプトに調整を進め、26年度内で基本設計が完了する見込みです。

議員 コミュニケーションスペース設置の考えは、町長 新病院は、「安心の医療サービスの提供」、「安らぎとくつろぎのある空間づくり」、「町民が誇れる病院」といった3つの大きな視点で基本設計の作業を進めています。コミュニケーションスペースには、集いの空間や当町出身の漆芸家の作品展示スペースなどを設け、地域住民や病院利用者がコミュニケーションの場として利用できる空間づくりを基本に設計を進めています。



新葛巻病院の建設予定地

議員 完成予想図、施設内見取り図などの公開揭示の予定は、町長 基本設計完了後の早い時期に、施設外観などの完成予想図や建物内部の配置図などを、広報誌やくずまきテレビを通じて、町民の皆さんにお知らせします。

### 問 茶屋場田子線遊歩道の整備は

議員 町道茶屋場田子線の整備で法面を活用した新たな町の景観創造、遊歩道の散策ウォーキングロードなどの整備の考えは、また、建設予想図の公開揭示の予定は、町長 堤防の法面を利用した景観的創造を構築する場合、県と協議が必要です。堤防の構造上の要件や設置後の管理を十分に精査する必要があるため、法面の活用には、さらに検討を要すると思います。

### 答 約2mの歩行空間確保する計画

議員 遊歩道や散策路の設置も県と協議が必要です。現在の設計路面構造は、車道に連続した歩行空間として幅1.2mを確保する構造で、この空間を利用した散策やウォーキングが可能と考えます。本路線の整備計画は、国道281号茶屋場交差点から役場裏の町道下町田子線接続部までの延長1810mです。地権者との交渉を進め計画の概要が固まり次第、建設予想図を公表する考えです。



やまざき くにひろ 山崎 邦廣 議員

### 問 育児相談など充実の考えは

### 答 柔軟な相談体制の構築を検討

議員 町民や移住者などの安心を向上するために、心の相談や育児相談の態勢をさらに充実させ、担当職員の勤務、居住環境の万全が必要と考えますが、町の取り組み状況を伺います。町長 人口減少対策の一環として、21年3月から移住定住者向けの奨励金・助成金制度の創設のほか、定住促進住宅の整備など受け入れ態勢の強化を図ってきました。この6年間で、41組105人の移住者を受け入れ、うち18組が45歳未満の若者移住者です。45歳未満の新婚夫婦に贈る新婚ライフサポート金は、23年度の制度創設以降、計42組のカップルに支給しました。今後、地方創生に関連した取り組みをより一層推進し、移住定住者の増加を図る考えです。現在、町が行っている

心の相談事業に、「地域包括支援センター」、「こころの健康づくり連絡会」、「自殺対策推進プロジェクトチーム」による自殺予防対策のほか、健診未受診者を対象とした「うつスクリーニング」、「地域安心生活支援員」、自治会を中心とした組織の「地域見守りネットワーク」事業などにより、要援護者の見守りや相談支援を実施しています。

議員 育児相談の関係では、各種乳幼児教室の開催、家庭訪問や電話相談など幼児の発育や病気のときの対応、予防接種などの相談を行っているほか、育児やしつけ相談では、子育て支援センターの保育士による対応も行っています。27年度から新たな取り組みとして、子育てに関する助成制度、保育サービスなどを掲載した「子



定期的に行っている子育てサロン

育て世帯向けのハンドブック」を作成し、支援策の充実と周知の徹底を図ります。また、相談に関するニーズの多様化や件数の増加が、今後、想定されていくことから、柔軟な相談体制の構築に向けた検討を進めます。現在、町の人口に対する保健師の配置数は7名で、県内でもかなり高い配置状況です。一方で、相談に対するニーズが多様化・複雑化してきています。そのほか、制度改正、災害発生時における要援護者への対応など、保健師や担当職員に求められる職務も多様化、複雑化してきています。今後、新規事業や制度改正などによる事業量の的確に把握し、人員配置や体制の調整を進める考えです。